2024年度 伊奈病院における医師の負担軽減及び処遇の改善に資する計画

(1) 医師の勤務状況等

2024/4/1 作成

項目	2021年度末	2022年度末	2023年度末
常勤医師数 (期末退職者含む) (人)	28	29	30
短時間正規雇用医師数 (人)	2	2	2
超過勤務時間 医師1人あたり月平均 (時間)	4.3	7.5	9.2

(2) 医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担

取組項目	全体的な取組目標	2023年度末現状	進捗状況			当年度以降の目標	
			達成済	進行中	未実施		
施設基準上、必要な項目	看護師 初診時予診の実施	総合受付および外来受付にて看護師により問診確認、追加聴取・問診へ追記する	外来看護科にて実施中	○		継続的に実施していく	
	看護師 入院説明の実施	入院窓口にて看護師による入院の説明の実施	入院支援科にて実施中	○		動画化等、効率化できる場所がないか適宜検討	
	薬剤師 服薬指導	入院患者へ薬学的指導実施	各病棟に担当薬剤師を配置し実施中	○		人員配置の変更を鑑みたローテーションの検討しながら実施を継続していく	
	医師事務作業補助者 検査手順の説明の実施	医師事務作業補助者による検査時注意事項等を含めた説明の実施	適宜、外来受付横の検査説明カウンターにて実施中	○		OJTを含めて対応可能人数の増加を目指す (対応可能人数割合) 2024年度末：課員のうち70%	
	臨床検査技師	SMBG、および持続血糖測定検査説明	医師、看護師の負担軽減と効率化	タスクシフト研修を終え2023年度より実施	○		引き続き、医師の負担軽減に努める
		外来静脈血採血実施	医師、看護師の負担軽減と効率化	2023年8月より、検査室内採血室で外来採血を実施	○		引き続き、医師の負担軽減に努める
その他	特定行為 看護師による特定行為の実施	特定行為看護師の医療行為実施による医師の業務負担軽減	2023年度 動脈血採血15名 (整形外科のみ)		○	動脈血採血に関する特定行為の活動範囲を院内全体へ拡大 創傷管理に関する特定行為実施	
	医師事務体制 補助体制	医師事務作業補助者の配置	医師事務作業補助体制加算継続的な取得	医師事務作業補助体制加算 (15:1) 保持		○	ジョブローテーションの定期実施等課内業務拡大に努める
		医師事務作業補助者の業務拡大	医師事務作業補助業務見直しと業務拡大に向けた能力評価の実施	医師事務作業補助業務の見直し年2回・個人能力評価年4回いずれも開始できるよう準備中		○	業務見直し・個人能力評価を開始できるよう引き続き準備中
	内視鏡検査 技師	内視鏡検査における介助および生検実施	医師における内視鏡検査の効率化及び負担軽減	タスクシフト研修を終え2024年5月より2名実施	○		引き続き、医師の内視鏡検査負担軽減に努める
		臨床工学 技師	内視鏡での直接介助及び装置の準備と洗浄を行うことで医師の負担軽減を図る	告示研修10名終了。内視鏡業務習熟者8名	○		引き続き、業務の習熟度を上げるとともに、業務を行えるスタッフの増加に努める
	手術 技師	外科及び整形外科の腹腔鏡下手術でのカメラ持ち	外科及び整形外科の腹腔鏡下手術でのカメラ持ちを行うことで医師の負担軽減を図る	告示研修10名終了。カメラ持ち業務習熟者2名	○		引き続き、業務の習熟度を上げるとともに、業務を行えるスタッフの増加に努める
	療法士	リハビリテーション実施の説明・書類の交付	ADL等の評価等を行い、療法士が書類を記載・当該書類について患者等への説明や交付を実施	最終確認・署名を医師が行うことを前提に実施中	○		継続的に実施していく
	管理栄養士	入院患者食形態変更	指示入力効率化	整形外科パス使用患者に限定実施	○		運用拡大可能範囲の模索 継続的な実施
事務職	入院時支援の補助	適宜医療保障制度や医療費の説明	必要時、医事課にて実施中		○	適宜実施していく	

(3) 医師の勤務体制等に係る取り組み

取組項目	全体的な取組目標	2023年度末現状	進捗状況			当年度以降の目標
			達成済	進行中	未実施	
勤務計画、連続当直を行わない勤務体制	連続当直を行わない勤務体制の実施・予定手術前日の宿日直に対する配慮	当直実施医師：3名 連続当直を行わない勤務体制の実施		○		引き続き、連続当直を行わない勤務体制の実施に努める
短時間正規雇用の医師の活用	育児のための短時間制度の活用により、医師の負担軽減を図る	2023年度 短時間勤務制度活用医師 2名		○		必要とする診療科の把握及び採用を行うとともに、短時間勤務制度の周知を徹底する
予定手術前日の当直や夜勤に対する配慮	予定手術前日の当直や夜勤を組まない勤務計画を作成	実施中	○			継続的に実施していく
外来縮小の取り組み	外来診療の予約優先制の定着	予約有り 69.9% 予約なし 30.1%		○		予約診療と直接来院患者のバランスを鑑み、最適な形を模索していく